2025 年度　おきぎんふるさと振興基金事業報告書

報告日令和 7 年 10 月 27 日

1. **事業名**　杉本信夫　ピアノ曲集『琉球わらべうた万華鏡』のデジタルアーカイブ化
2. **申請者**　杉本信夫『琉球わらべうた万華鏡』刊行実行委員会
　　報告：杉本弘子(代表)

3. 事業にいたる経過

作曲家・沖縄伝承音楽研究家の杉本信夫(1934-2022)は、沖縄がアメリカの施政権下にあった 1960 年代より、50 余年にわたり沖縄、奄美の伝承歌を土地のお年寄りから採集、五線譜に記録した。それらの歌は時代の変化とともに、忘れられ、失われてしまった歌も多い。杉本は、「文化の継承、特に無形である音楽の継承には創造が不可欠」との思いから、わらべ歌を元に、1000 曲を超えるピアノ曲を作曲した。しかし、この曲集を公表することなく、2022 年に逝去した。

『琉球わらべうた万華鏡』と名付けられたこの曲集は、各地域の特徴や節回し、時代背景や生活様式のなかから生まれた豊かな歌の本質を失わず、かつ、現代的な響きとリズムが重ねられた、美しい作品の数々となっている。

そこで、これらの作品が世に知られ、演奏されることを願う演奏家や研究者などが集まって、本事業を企画するに至った。

４．事業の目的

作品の一部はこれまで大学の紀要や演奏家が取り上げ発表する機会もあったが、殆どが未公開で手書きの楽譜のままとなっている。当会は杉本信夫の『琉球わらべうた万華鏡』をデジタルアーカイブ化することを目的として、下記の事業を行ってきた。

① 自筆譜の電子的浄書と音源化

② オンライン発信を目的としたシステム化(ホームページ等の作成)

これにより、沖縄・奄美のわらべ歌の魅力溢れる作品に誰でもアクセスできるようにしたい。

また、沖縄・奄美の伝統音楽を貴重な文化として継承し、伝統音楽の新しい創造的な力を発信していきたい。

５．<u>実施内容の詳細</u>

（楽譜の浄書・校正作業、ホームページ作成に向けた委員会の活動など）

2023.5.22	**第１回ミーティング：**主旨の賛同者 11 名と、作曲家・編曲家の赤嶺康氏が参加 1.ピアノ曲集『琉球わらべうた万華鏡』のネット公開について 2.楽譜作成ソフトウエアの「finale」を用いて手楽譜を浄書、音源の作成 3.全曲の浄書を目指す➡赤嶺氏に浄書を依頼
2023.7.18	**赤嶺氏との打ち合わせ** 赤嶺氏と委員会メンバーで、浄書進捗の確認と杉本作品の特徴を共有
2023.9.29	**第２回ミーティング**（参加者 10 名） 1.委員会の発足 2.浄書楽譜のサンプルと音源サンプルを委員会で共有し、浄書作業の進捗と作品の特徴などを確認した 3.校正を行う。校正作業の協力者を募集していく
2023.10.1	**赤嶺氏との打ち合わせ**(委員２名) 赤嶺氏より、自筆譜と浄書譜が一致していないとの説明を受ける 赤嶺氏へ浄書譜の校正を行うこと伝える
2023.12～	**委員により校正開始**
2024.1.30	**浄書・校正チーム打ち合わせ**(赤嶺氏含め、4 名で作業チームとした。) 赤嶺氏浄書譜と自筆譜と異なる部分について、その原因を確認。 赤嶺氏と以下の点で合意 1.誤記の修正(音符や音高の誤読によるもの) 2.杉本独自の表記、スタイルの尊重 3.記入漏れなどミスはできる範囲で補う 4.わからないところはオリジナルのまま(３にも当てはまる) 5.奏法のこだわりを反映する(解釈しない、一般化しない)
2024.3.27	**赤嶺氏と進捗状況の確認**
2024.4.26	**第３回ミーティング**(参加者 11 名) 1. 校正内容を委員会メンバーで 10 曲分確認した➡校正は複数人で行っていくこと。 2.杉本の曲は沖縄の伝統音楽であり、五線譜の正統的な書法にない記号や書き込みがあるが、作曲家は譜面で自らのイメージを演奏者に伝えようとし、一方で演奏者を束縛する必要のない要素は書いていない。 正統的な書法に直すべきでない一方で楽譜作成ソフトは自動的に(finale

	の書式)に変換してしまうため、2種類の楽譜を作ることとする。 A ウェブ公開する浄書譜は、「杉本信夫の作品」として自筆譜通りを原則とする B サンプル音源用の楽譜を別途作成する 3.ホームページについて、メタデータの記載方法の確認　各ページの詳細、今後のスケジュール
2024.11.5	**第4回ミーティング**(オンライン参加含め９名) 1.校正作業の進捗状況と今後の浄書方法について、委員内で共有した。 杉本の使う特殊な表現などは、図像として自筆譜どおりに表現することを目指す。 2.おきぎんふるさと振興基金の成果報告について➡目標の見直しをした
2024.11.13	**浄書・校正チーム打ち合わせ**(赤嶺氏と委員4名参加) 1.浄書校正作業について、A、B2種類の楽譜が必要であることを相互確認し、細かい修正方法について確認した 2.まずは２０曲分で赤字戻し(委員２名)→2校提出(赤嶺)→記号図の処理(委員)→確認(委員２名) 3.校正作業の流れを整え、年度内で何曲仕上がるか予測する
2025.3,10	**浄書・校正チーム打ち合わせ**(赤嶺氏と委員4名参加) 1.作業の流れを見直した 2.音源作成をすすめる 3.おきぎんふるさと振興基金の成果として**100曲公開**を目指す
2025.4.30	**第5回ミーティング**(７名参加) 1.浄書・校正についての課題検討 １曲あたり、2校、3校と細かい作業になるため、わかりやすく進捗表で認識できるようにする/finale でできる修正が全て終わった後にイラストレーターで記号(図像)を加える/作業を紙のやりとりでなくデータで効率化する/校正作業の人員不足 2.ホームページ９月公開を目標に準備中
2025.9	**自筆譜100曲の浄書譜と音源の完成**

６．成果

① 手書きのまま眠っていたピアノ曲集『琉球わらべうた万華』の自筆譜を浄書譜にすることで、視認性が向上し、演奏しやすくなった。(１００曲完成)

② 楽譜作成ソフト「finale」で浄書した浄書譜は、演奏家など複数人で(実際にピアノで演奏するなど一音一音)丁寧に校正することで、自筆譜に沿った楽譜となった

③ 「finale」の限界を補うため「イラストレーター」を併用し図案を作成することで、自筆譜の特殊な記号や表記を尊重した。

④ 「finale」で、楽譜を作成することで、100 曲分の音源データを YouTube で公開できた。

⑤ ホームページを公開した。(現在はパソコン版のみ公開)

- 『わらべうた万華鏡』の全目録(１０４５曲の曲名、わらべ歌を採集した地名)
- １００曲の浄書譜・自筆譜・電子音による音源・作曲する際参照した資料・歌の説明
- 杉本信夫の功績と人間像を紹介することができた。

⑥ ホームページから YouTube へ移動し、百名香代子氏の演奏による『わらべうた万華鏡』や、その他の杉本の作曲作品を紹介した。(今後、杉本と親交のあった方々へのインタビュー動画など、随時アップ予定)

⑦ ミーテイングや校正・浄書チームの打ち合わせを通じて、作曲家本人の音符へのこだわりは、沖縄・奄美の伝承歌へのこだわりであること、自筆譜の大切さを委員内で共有、事業の方向性を、その都度確認しながらすすめていくことができた。

７．課題と今後の展望

①貴社の助成金申請時の計画では、「浄書を１年で終了する」としていたが、浄書作業開始後、自筆譜に沿った浄書譜を作成することが、簡単な作業でないことがわかった。

杉本の作品は、沖縄の伝統音楽の豊かな本質が表現された、杉本独自のものである。その独自性を大切にするため、楽譜作成ソフトで正統的に変換された浄書楽譜を、自筆譜通りに浄書し直す作業に多くの時間を要することがわかった。

私どもの見通しの甘さから、この１年間の成果は 100 曲にとどまったが、今後もさまざまな機関のご理解･ご支援をいただいて活動を継続し、1000 曲の完成をめざしたい。

今月、新たに校正に加わってくださる方が増えた。今後も広く、取り組みを知ってもらい、協力者をふやすことで、時間を要する事業ではあるが、着実に続けていきたい。

③ ホームページを公開するだけでは発信力が不足しているため、当委員会の活動を広報し、実際に音楽として届けるコンサートなども企画していきたい。

④ 全曲の浄書完成後には、手に取って演奏できる選曲集の発刊を目指したい。

杉本作品を通じて、沖縄の音楽の創造的な力を発信できるものと考える。

８．謝辞

委員会を立ち上げ、活動を開始したばかりの私たちに、貴重な資金をご提供いただいた公益財団法人「おきぎんふるさと振興基金」事務局様をはじめとする関係者様に心より感謝申しあげます。事業の進捗状況をお伝えした折も励ましの言葉をいただきました。

杉本信夫のピアノ曲集『琉球わらべうた万華鏡』を紹介することが、沖縄の文化をつたえる、ひとつの形(入り口)になることを願い、活動を続けていきたいです。どうか今後も応援よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

杉本信夫『琉球わらべうた万華鏡』ホームページのご紹介

ホームページ URL：https://nobuo.my.canva.site/

1. ホーム

２.略歴

略　歴

沖縄伝承音楽の研究家であり作曲家、
杉本信夫（1934年2月1日 - 2022年11月1日）の略歴を年表にまとめました。

1934年	2月1日、大阪市に生まれる。
1956～1958年	日本大学芸術学部入学・中退。
1958～1960年	東洋音楽短期大学（現・東京音楽大学）入学・卒業。 箕作秋吉（作曲）、アルベルト・レオーネ（指揮法）に師事。
1960～61年	チャイコフスキー記念東京バレエ学校勤務（バレエピアノと音楽理論）。
1961～77年	東京都葛飾区立立石中学校の音楽教師として16年間勤務。
1964年～	沖縄各地の伝承歌の採集・記録に取り組む。 琉球古典音楽を与那覇政牛に師事。
1965年	当時人気の女性４人組民謡グループ「フォーシスターズ」の宮城島巡業に同行し、伊波みどりさん(当時中学３年生)から三板(さんば)の妙技を習い、東京の中学生や沖縄返還運動のなかで三板の魅力を広める。
1965年～1971年	「沖縄・小笠原返還同盟」に文化部をつくり、各種の集会で沖縄の歌や踊りを紹介。
1970年	米民政府より沖縄渡航を拒否されるが、抗議運動によって撤回させる。 琉球諸島全域にわたり、伝承音楽（わらべうた、作業歌、神歌等）の採集・記録を実施。
1977～81年	鹿児島短期大学教授（作曲、対位法、ソルフェージュ、音楽教育論）。
1981年	沖縄県糸満市に居をかまえる。
1982～2014年	沖縄国際大学非常勤講師、沖縄国際大学南島文化研究所特別研究員。
1994～2007年	沖縄県立芸術大学非常勤講師。
1996～2004年	琉球大学非常勤講師。
2001年～	沖縄三板（さんば）協会会長に就く。
2006年	第23回東恩納寛惇賞受賞（音楽部門から初の受賞）。 受賞記念コンサート「杉本信夫 沖縄音楽の世界ークラシック系沖縄現代音楽から、創作琉舞、新作民謡に至る作品」がパレット市民劇場で開催される。
2010年	第54回沖縄タイムス文化賞を受賞。
2015年	脳梗塞発症後、自宅で療養生活となる。
2022年	11月1日、自宅にて永眠（享年89）。

3.『琉球わらべうた万華鏡』曲目録

琉球わらべうた万華鏡

1964年に初めて沖縄を訪れて以来、奄美群島の喜界島から、
八重山諸島の与那国島までを巡り、琉球諸島の歌を採集しました。
わらべうたから創造した1045曲のピアノ曲集『琉球わらべうた万華鏡』をご紹介します。

全画面表示は
ここをクリック

『琉球わらべうた万華鏡』
ピアノ演奏を聴いてみる

目 録

各曲名をクリックすると詳細ページへ移り楽譜の閲覧や音源の視聴ができます。
※現在100曲までの楽譜・音源を視聴できます。浄書が完成次第、順次、公開していきます。

No.	曲名	よみがな	採集地
1	通うてィよ里前	みちうてぃよさとぅめー	国頭村安田
2	てィーちがしー	てぃーちがしー	玉城村仲村渠
3	山原が入っちゃんど	やんばらーがいっちゃんど	玉城村仲村渠
4	スーリ玉金	すーりぐんば	那覇市泊
5	あーけーじゅー	あーけーじゅー	佐敷村屋比久
6	ハブでーびる	はぶでーびる	那覇市首里
7	西方ね（砂遊び）	いーりほうね	石垣島 石垣市石垣
8	あんがま達ぬ	あんがまたーぬ	石垣島 石垣市登野城
9	くまぬ船や	くまぬいにや	伊是名島 伊是名村仲田
10	ミーハを里貴	みーはきぐんそう	国頭村安田、玉城村仲村渠
11	三良うんちゅ	さんらーうんちゅ	具志川市平良川
12	ヘイヨーヘイ泣くなよ	へいよーへいなくなよ	今帰仁村今泊
13	天ら落てィてィぬ糸潰ぐゥー	てぃんらうてぃていぬいちゅまんぐぅー	今帰仁村今泊
14	ヨイヨイヨイ・母乳	よいよいよい・あんまちち	国頭村安田・玉城村仲村渠
15	唐や平組・ジョーバン ナカムイ	とーやひらぐん・じょーばんなかむい	那覇市首里・那覇村
16	母がよ ～飛衣裏伝説の子守うた～	あんまーがよ ～とうびんすてんせつのこもりうた～	国頭村辺土名
17	てィちュー手魚祭	てぃーちぇーてぃどぅくん	佐敷村屋比久
18	サーしゅっけまっけ	さーしゅっけまっけ	竹富島 竹富町竹富
19	雨まよ降い組んな	あみまよふいたぼんな	石垣島 石垣市登野城
20	桑木ぬ下でーびる	くぁーぎぬしちゃでーびる	那覇市

全画面表示は
ここをクリック

【曲名の表記について】
※一般の日本語にはない特殊音は、ひらがなとカタカナの小字を組み合わせて1音とみなします。
（例：通うてィよ里前／てィーちがしー／天ら落てィてィぬ糸潰ぐゥー／etc.）
※ただし、「山原が入っちゃんど」のように、撥音や促音については共通語と同じなので、ひらがなの小字にしています。
※「くザとっくザとゥ」のように、「ゥ」の右上に「゛」（半濁音）が付いているのは、多良間島方言の発音で、表記が難しい特別なものです。

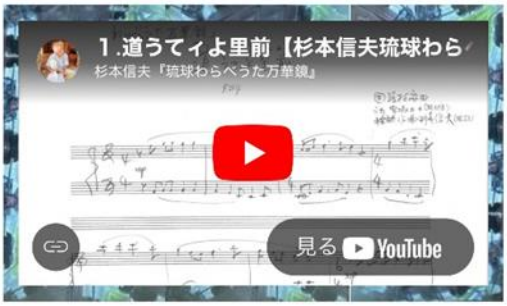
【採集地について】
※採集地は、杉本が採集した当時の市町村名を記載しています。
※沖縄本島の場合は島名と省略し、それ以外の地域では島名を併記しています。
※杉本が採集していない作品については、使用した資料に記載された地名をもとにしています。

3－A. 楽譜ページ

目録の曲名をクリックすると各曲の詳細へリンクします。
採譜場所や作曲月日、曲についての説明を載せています。

1. 道うてィよ里前
（みちうてぃよさとぅめー）

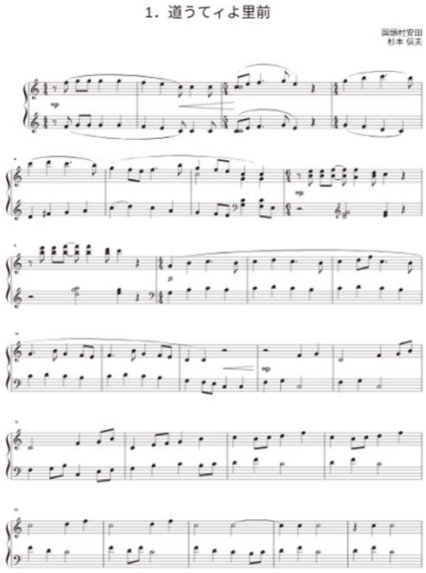
採集地：国頭村安田
歌い手：宮城カメ（明40生）
採譜者：杉本信夫
資料：日本わらべ歌全集26「鹿児島　沖縄のわらべ歌」　柳原書店　1980

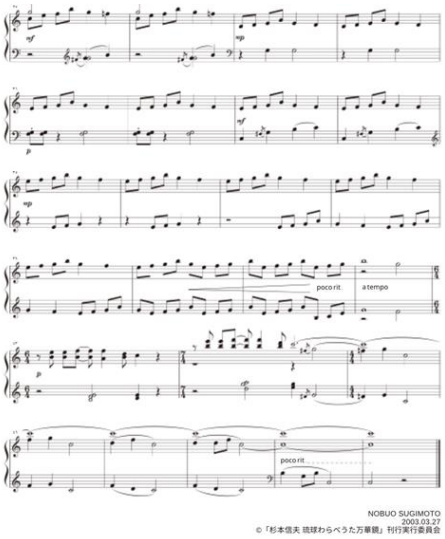


付記

＜手まり歌＞
♪道うてィよ　里前(さとぅめー)　らんくなーや
すなよ　イラヨー　スーリー　我家(わーやー)に参
(もー)れ　らんくさびら、、、

「道にいる彼氏よ」と呼びかけ、どうらや男女の恋愛関係のようだと聞いた。道でくっつかないで家に帰って「らんくさびら＝くっつきましょう」ということらしい

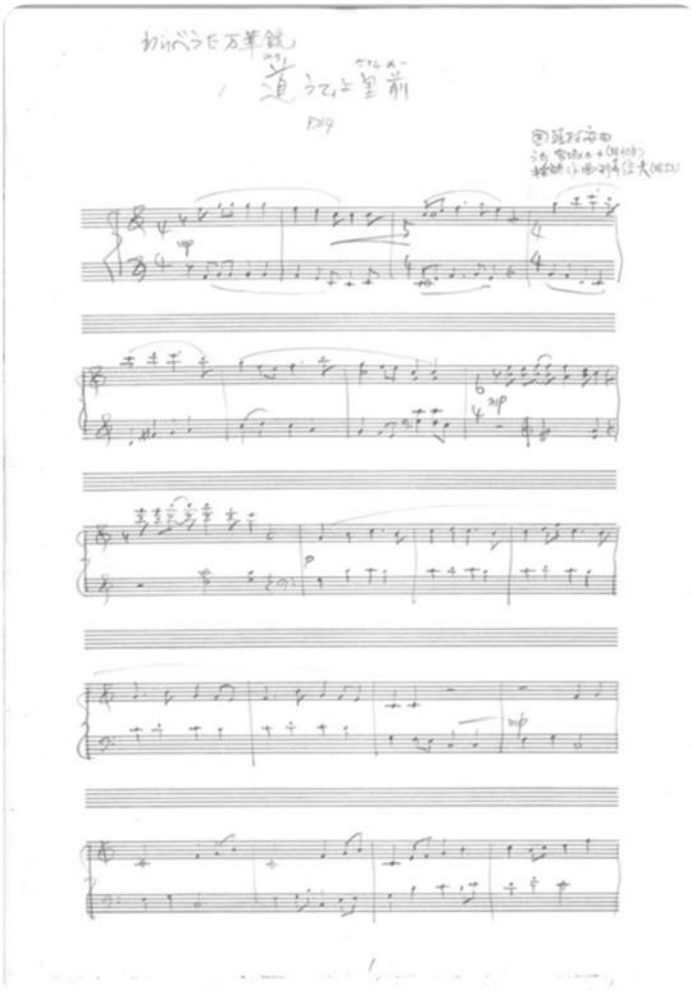




3－B．楽譜ページ

音源の視聴や自筆譜の閲覧、浄書譜のダウンロードも可能です。

自筆譜



楽譜のダウンロード

4.著作・調査報告・研究ノート

著作・調査報告・研究ノート

大学紀要、調査報告、寄稿文などを紹介します。

著作

花ぬ風車（1973）

編集後記より・・《沖縄返還同盟は沖縄の全面返還と日本の民族文化の新しい創造と発展のために、沖縄県の歌や踊りを広め、本土との文化の交流をすすめてきました・・》
沖縄返還同盟の運動の中で、よく歌い踊ってきた曲を中心にしてこの歌集がつくられた。

沖縄の民謡（1974）

東京・豊島区立 立石中学校の教員であった杉本は、学校の夏休み期間を利用し沖縄に通う。当時70～90歳の古老から教わった民謡やわらべうたなど(わらべうた、八重山の男女による集団労作唄ユンタ・ジラバ、宮古の美しい抒情的旋律のアヤグ、力づよい集団巻踊り唄クイチャーや、古い神行事歌、作業歌等)、一般にあまり紹介されることのなかった沖縄の庶民の歌謡２１５曲を全国に紹介した。

とんやま節（1975）

♪橋をかけましょナ　橋のない川に　自由と権利をょぇ　守るため　とんやま♪
社会の底辺で虐げられてきた「部落」のあった奈良県大和高田市曙、土庫。１９６７年、杉本は、１９６４年の住宅闘争の座り込みをきっかけに復活した、抵抗の歌「とんやま節」「くい打ち歌」「うす挽き歌」等を採集し、歌曲集とした。これらは「悲しみと怒りのうえにたくましさと美しさにあふれている」と本書で紹介されている。

三味線教本（1976）

東京・豊島区立 立石中学校の三味線クラブの生徒たちへの指導にあたり、この教本が作られた。三味線のひき方の解説は、生徒あるいは独習者のための最低限必要な事項にとどめている。
教本の全曲は、クラブの生徒たちで構成された"てぃんさぐ三味線合奏団"によって、1975年8月1日に石垣市立石垣小学校での「東京と八重山をむすぶ子供音楽会」で公開演奏され、この「三味線の400年ぶりの里帰り」は大歓迎をうけた。

日本わらべ歌全集
鹿児島沖縄のわらべ歌（1980）

北海道から沖縄まで都道府県別にわらべ歌の歌詞、曲譜を記録。民族伝承や遊び方などの解説も付したわらべ歌の集大成・全集。鹿児島は久保けんお氏、沖縄は杉本、高江洲義寛氏が執筆。

誰でも打てる楽しめる沖縄の三板（2011）

三板の教本。世界に翔ばたくよう日本語、英語、中国語、スペイン語で記されている。
日本三板協会は2001年3月8日を三板の日として設立されたが、2010年、会の名称を「沖縄三板協会」に改めた。毎年3月8日、一流民謡家らによる三板講

年代	著作・調査報告・論考・研究ノート
1966～1973	「生きている民謡－沖縄の音楽」沖縄・小笠原返還同盟機関紙『沖縄小笠原新聞』第8号から連載開始。沖縄返還同盟機関紙『沖縄』の最終号まで72回連載
1973	『花ぬ風車－沖縄のわらべうた』沖縄返還同盟東京都本部（沖縄返還運動のなかで親しまれたわらべ歌、民謡の楽譜集）
1974	『沖縄の民謡』新日本出版社
1975	『だれでもひける 楽しめる 三味線教本』あゆみ出版
	『歌曲集 とんやま節 未開放部落に伝わる抵抗の歌』あゆみ出版
1977	「沖縄・渡嘉敷のうた」『南日本文化 第10号』鹿児島短期大学南日本文化研究所
1977～1981	「沖縄の子供のうたより、ピアノ小曲集Ⅰ～Ⅷ」（わらべうたをもとに72曲のピアノ作品)『鹿児島短期大学研究紀要 第20～27号』
1979	「竹富島の〝古謡〟アヨー・ユンタ・ジラバ」『南日本文化 第12号』鹿児島短期大学南日本文化研究所
1980	『日本わらべ歌全集／第26巻 鹿児島・沖縄のわらべ歌』共著者：久保けんお・高江洲義寛、柳原書店

5.公開された作品

公開された作品

クラシック、民謡、創作琉球舞踊、人形劇、バレエ曲……。ジャンルを超えた
杉本の作品は、多くの演奏者や表現者によって上演・発表されました。

年代	公演名（会場）	作品名・演奏者名
1960	作曲グループ 新萌会発表 （プリヂストンホール）	「ピアノソナタ」 ピアノ：高原節子
	作曲グループ 新萌会発表 （第一生命ホール）	「室内管弦楽のための組曲」 日本室内交響楽団
1962	作曲グループ 新萌会発表 （日仏会館ホール）	「啄木の詩による二つの室内歌曲」 ソプラノ：唐木暁美
1964	作曲グループ 新萌会発表	「歌曲集 月夜の漁夫」 詩：赤木三郎 バリトン：友竹正則
	作曲グループ 新萌会発表	「歌曲集 細道の奥」 アルト：内田るり子 ソプラノ：滝沢三重子、池田弘子
1966	日本音楽舞踊会議発表	「合唱組曲 沖縄のわらべうた」
	民族舞踊団カチューシャ	「歌舞劇 沖縄の歌」
1969～1974	日本音楽舞踊会議	「沖縄の子供のうたより（ピアノ）小曲集」 「宮古民謡による15のピアノ曲集」
1973	日本音楽舞踊会議	「歌曲集 沖縄の子守歌」
1974	滝沢三重子ソプラノリサイタル （青山タワーホール）	「歌曲集 とんやま節」 ー未解放部落に伝わる抵抗の歌ー
	山形真紀子バレエ研究所 （九段会館）	「バレエ曲 うっじゃが母」
1978	人形劇団かじまやぁ公演　音楽作品	「人形劇 キジムナーの笛」
	東京女声アンサンブル 鹿児島ズィング・アカデミー	

6．メディア掲載

メディア掲載

杉本が新聞に寄稿した文章や、その活動に関係する記事を順次紹介していきます。
1982年『琉球新報』掲載のコラム「落穂」には、杉本の幼少期、戦争の時代、音楽との出会いから、沖縄へ移住するまでの様子が、興味深く書かれています。
画像をクリックすると新聞が読めます。

▲1982年（琉球新報）
杉本信夫
落ち穂・連載①～⑬

▲2006年（沖縄タイムス）
真久田巧さんより
大弦小弦「東恩納寛惇賞
受賞記念コンサートについて」

▲2022年（琉球新報）
比嘉悦子さんより
「島々歩き民謡を採譜」

▲2022年（八重山毎日新聞）
真久田巧さんより
「沖縄音楽の普遍化に力」

7.いただいたエピソード

8.ギャラリー

ギャラリー

写真で見る杉本信夫です。生い立ちから、
コンサートや活動の模様、出会いがいっぱいです。

1 ポートレート

2 舞台コンサート等

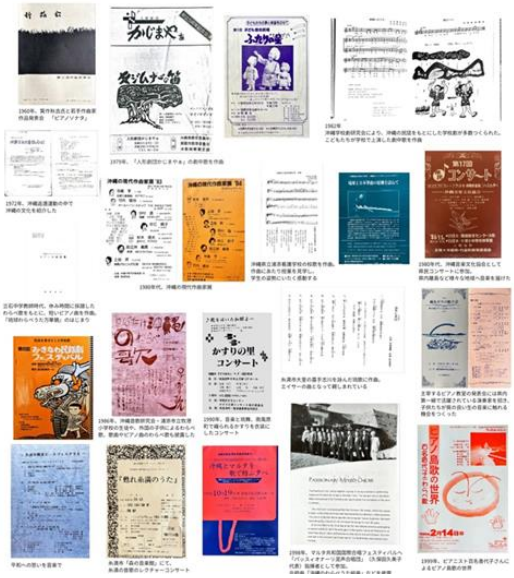
3 杉本信夫が出会った沖縄

舞台コンサート等

“研究成果は地域へ還元”を信条に、県内外で講演、勉強会、わらべ歌などの普及活動を行い

平和への思いも強かった杉本。その作品は、多様な表現者によって演奏、公演されました。

公開された舞台写真やパンフレットの一部を紹介します。



杉本信夫が出会った沖縄

1964年に取材で初めて沖縄を訪れた杉本。1981年には糸満に居を構え、終生を過ごしました。

杉本がカメラに収めた沖縄をご覧ください。

離島の風景など、順次、公開していきます。

ウミンチュ(海人)たちの生活力あふれる風景
1964年当時の糸満漁港・公設市場・糸満西区